

MATSUDOING2050

専門家からのコメント

横張真(東京大学教授)
宮城俊作(東京大学教授)
秋田典子(千葉大学准教授)
藤村龍至(東京藝術大学准教授)

2020.7.3

横張真(東京大学教授)

このところ、新型コロナウイルス感染症が社会にもたらす影響について、医学や社会学、経済学など、様々な専門分野の先生方と意見交換する機会がありました。多様な視点から、いろいろな指摘がなされましたが、ただひとつ、皆さんが共通して指摘されたのは、日本も世界も、もう二度ともとは戻らない、ということでした。

こう言うと、暗黒の世が到来すると、絶望される方もいらっしゃるかもしれません。しかし、では、2020年2月までの日本と世界は、そんなにも幸福ですばらしい社会だったのでしょうか。もちろん新型コロナウイルス感染症は、命を奪う恐ろしい病です。経済の大混乱のなかで、職を失ったり、将来に不安をかかえていらっしゃる方も、少なくないと思います。しかし、どんなに悪夢であってほしいと願っても、これが現実です。私たちはこの先何年も、この感染症とともに生きて行かねばなりません。そうであれば、今、私たちがすべきことは、もとに戻ることを目指すのではなく、新しい現実のなかで、少しでも良い社会やまちをつくるべく、力を合わせることはないでしょうか。

これまで、皆さんと回を重ねてきたワークショップは、期せずして、松戸に暮らす市民の皆さんが、行政と力を合わせ、新しい現実のなかでより良いまちをつくっていく、その種となったのだと思います。この種を芽吹かせ、大樹へと生長させることができたとき、松戸は、with-Corona / post-Corona時代をリードするまちへと変貌することでしょう。今、もっとも大事なものは、古い因習やわだかまりを捨て、様々な力を結集し、新しい社会とまちを目指すことだと確信します。

宮城俊作(東京大学教授)

MATSUDOING 2050 次のステップへ

昨年の夏に始まった一連のワークショップは、最終段階にきて思わぬ事態に遭遇しました。しかし、だからといってこれまでのプロセスが無に帰したわけではありません。たしかに皆さんと作りあげた今回のものは、その具体性においては当初想定されていたものよりも曖昧な提案になっています。しかし、現在の事態とその後に予想されるいくつかのまちづくりのシナリオにおいては、そのことがとても大事になっていくのではないかと考えています。さらに言えば、東京との関係における松戸の地理的な位置においてこそ、まちの拠点となる場所に曖昧な空間が確保され続けることが重要なのではないのでしょうか。リモート(離れていてもできること)、ディスタンス(最適な密度を保つこと)、レジリエンス(ストレスを吸収できること)が、まちづくりの次のステップが踏み出す方向を示すキーワードになりそうです。新拠点ゾーンの中核となる空間が、この曖昧さを維持しつづける場所であることの意味を、今一度皆さんとともに共有できれば幸いです。

ワークショップ参加者各位

秋田典子(千葉大学准教授)

市民の皆さんとのワークショップは、松戸で10年以上働いてきた私にとっても発見に満ちたものであり、楽しく充実した時間でした。松戸が変わる(かもしれない)という期待に満ちたワクワク感を参加した皆さんと共有できたことは何よりも幸せでした。今の私たちにとって大切なのは、こうした松戸の未来に対する希望だと思います。社会の状況は大きく変化していますが、自分たちの街を自分たちの力で変えてゆくという皆さんのパワーこそが、新しいまちづくりの源です。これからの新しいまちづくりに、皆さんの希望を繋げてゆけるよう、引き続き真摯に取り組んで参りたいと思います。

藤村龍至(東京藝術大学准教授)

6回にわたるワークショップへのご参加ありがとうございました。初回のワークショップからずっと、ジェンダーバランス、ジェネレーションバランスの調和した「小さな公共空間」が現れたように感じました。いい雰囲気の中で、皆さんが前向きに意見を交換し、どんどん新しい意見が集まる様子を見て、松戸で新しいことが起こりそうだという期待を感じました。

第6回にあたっては急遽映像とアンケートでの開催となり、異例の経験となりましたが、今後の「小さな公共空間」はこのように作られていくのかも知れない、とも感じました。これまでは限られた日時に一箇所に集まるという形式でしたが、集まれる人だけでなく、日中参加できない方々や曜日によって参加できない方などにとっては、制約が取り払われる可能性も感じられたからです。

MATSUDOING2050～わたしがつくる！まつどのみらい～ワークショップはひとまず区切りを迎えますが、これで終わりではなく、今までの議論を引き継いで発展させるご提案を続けたいと思います。今後ともよろしくお願ひ致します。